

## 1. 活動報告（事務局 記）

- 8月2日（日）田んぼの草取り、おもにコナギの繁茂の草取り機手押し後、全員で這いつくばっての手による草取りでした。又、前回刈り取った葦の集積と草原ゾーン川の大雨による市道崩壊土砂の片付けを行いました。会員同士の呼びかけで20名の参加で作業がはかどりました。
- 8月4日（火）厚東中学校男子ソフトテニス部8名が石川先生引率のもと湿地帯のエコアップに活動してくれました。中学校の教育の一環とは言え暑い中きつい活動を3時間やりきってくれた事に感謝します。当会からは今井会長、田村副会長、前田エコアップ担当、西原会員、藤村会員、内藤会員、と事務局7名が一緒になってエコアップや田んぼのコナギ除草も行いました。
- 8月6日（木）第二回厚東中学校のブラバン部、文化部ボランティア3名と佐伯校長、庄司先生、福田先生と保護者の岡田さん計7名にて、田んぼのコナギ除草とイナゴの捕獲をして頂きました。当会から今井会長、吉富匡会員、事務局が参加しました。田んぼもすっかり除草され秋にはもち米の豊作が約束されました。
- 8月10・11日 里山の田んぼにイナゴが大量発生しています。6日に厚東中学校ボランティア活動と一緒にイナゴの捕獲を行い虫籠に約半分約200匹位捕獲しましたが、10日夕刻同じく約200匹位獲りました。11日車地会員（原田賢、吉富匡、内藤、事務局と木田吉本正会員5名）で早朝8時～9時まで約600匹位（虫籠満タン）捕獲しました。獲ったイナゴは合鴨の餌にするため預かっていただいている山田さんに手渡します。
- 8月17日（月）田んぼの除草とイナゴ捕獲及び電柵下草刈を行いました。今だ稲株の分蘖（ぶんけつ）が悪いのは、コナギとイナゴ被害のためであると判断して行いました。今井会長、吉富匡会員と事務局でした。
- 8月19日（水）午後 善和園中村先生他4名の先生方と生徒14名合計19名にて駐車場の草刈ボランティアをして頂きました。大変暑い中伸びきった草刈りで大変でしたが全部きれいに済ませていただきました。お礼を申し上げます。
- 8月22日（土）（午前）エコアップ：湿地帯の周囲繁茂ガマの穂、スゲ、クサネムの刈り取り、ため池内のアサザ、イグサ間引き  
草刈り：草原の残り部分、市道土手、水路土手、東屋周辺  
駐車場刈り取り草の焼却 等々15名の参加者でした。ビオトープ全体がすっきりきれいになりました。  
（午後）「里山自然観察隊」は須賀河内川東屋から清瀬峡二俣の滝までの沢登（高学年9名とスタッフ7名）と、ビオトープと須賀河内川下流域での魚とりを低学年とジュニア隊員で行いました。参加者は隊員17名、保護者15名、会員スタッフ14名と山大学生応援7名及び旧ジュニア隊員中本君の応援も得て総勢54名でビオトープ周辺の生息水中昆虫、魚類の捕獲研究を網、わな、投網、釣り、などによって行いました。
- その他 毎週土、日に、タテバチドメグサの間引を前田歳朗エコアップリーダーが活動されています。  
8月22日まで、草原ゾーンなど草刈り残り部分の刈り取りを行いました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

◎ 行事

— 9月6日（日） 維持活動：エコアップ、草刈り

— 9月19日（土）維持活動：エコアップ、草刈り

## 3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

— 8月7日 —

・きょう滝をみにいきました。とても楽しかったです。またいつつぎは、でっかいたきをみてみたいです。  
岡村芽依 8才

・今日川で遊んで楽しかったです。私は川で泳ごうとしたらビーサンがぬげたのでしゃくでした。けど川で遊んでいたらすごく楽しかったです。森に行ったらきのこ、アブラゼミ、バッタとかがおったので楽しかったです。わたしはすごくでっかい滝をみるのは、はじめてです。つぎは二俣瀬に行って他の場所を見つけてみたいです。今日はすごく楽しかったです。

思ったこと 新山し月 3年8才

・今日たんけんをしました。たんけんをしてたのしかったです。たんけんをして、たきがみれて、うれしかったです。  
児玉慧成

## 4. 里山自然観察隊の活動報告 8月22日 川の探検（魚と水生昆虫観察）

隊員17名、保護者15名、会員14名、学生8名

須賀河内川遡行班（高学年の希望者）（関根 雅彦 記）

昨年は厚東川での観察でしたが、本年は7月末の豪雨の影響か厚東川ダムの放流量が多い日が続き、お盆中の確認では流れが速い上に魚があまり観察できませんでした。また、須賀河内川の観察と厚東川の観察を年替わりで実施したほうがいろいろな環境を見るという意味で参加してくれる隊員にも良いのではないかと考えましたので、本年は須賀河内川を遡行することにしました。

午前中の下見では、夜間の雨で水が濁り、また天候も曇りがち。熱い日差しの下できれいな水の中を歩きたかったので少し心配でしたが、午後になると熱い日差しが戻り、また水も午前よりは澄んで、まずまずの状態になりました。

これまではビオトープの下流端からスタートしていましたが、今年は途中の魚とりに時間をとるため、ビオトープ上流端からスタート。9人の隊員が川に飛び込むと、水の冷たさに歓声があがります。最初にあらかじめ準備したペットボトルのわなを各自設置し、いよいよ遡行開始です。今年は豪雨の影響で、河床に砂が堆積している部分が多く、2年前とはずいぶん違った印象。意外な流れの速さに、初めての隊員からは驚きの声があがります。堰を越えるとしばらく穏やかな区間が続くので、ここで1回目の魚とり。ただし、夜間の雨のためか河床全体にうっすら浮泥がたまっており、先頭グループが歩くと水が濁ってしまいます。水が澄んでいれば水中メガネで泳ぎながら魚を探せたと思うので、ちょっと残念。

この区間の終点は父滝ですが、豪雨の爪痕で滝壺周辺が大きく開け、遡行にはむしろ好都合。滝壺で網を投げると、大きなカワムツやギンブナが捕れました。滝壺は大人でも背が立たないほどで、泳いで急な岩肌にとりつき、四苦八苦しながら滝を登ります。父滝を突破できれば母滝は簡単。母滝の上で2回目の魚とりタイムですが、「もう滝はないの？」と滝登りがお気に入りの様子でどんどん先に進みます。少し歩くと林の中の小滝群。小さな滝でも意外に深い滝壺に驚きながら前進し、二俣の滝を超えて終点。全員無事到着しました。出発点に戻ってしかけたワナを確認すると、結構大きなカワムツが入っているものがありました。いつもペットボトルのワナをつくらせるものの、魚がとれることは減多になかったので感激しました。ヨシの草陰に設置したのが良かったのだと思

います。

今回とれた魚はカワムツがほとんどで、以前より多様性に乏しい印象ですが、久しぶりにモクズガニがとれたことと、川ではじめてドジョウがとれたことはよかった。洪水の影響を肌で感じられる川登りでした。

#### ビオトープとそばの須賀河内川（川登り以外の隊員）（西原 一誠 記）

ビオトープの池や湿地や小川と、そばの須賀河内川に入って、魚と水生昆虫を捕獲して観察しました。川は深い所では子供の首まで浸かる淵もありましたが、皆元気よく楽しみながら網を使って魚などを捕まえていました。投網では15cm位の大きなドンコも捕れました。ワナは主に川に仕掛けましたが、何も入っていませんでした。釣りでは主にハヤ（カワムツ）が釣れました。また、川ではコオニヤンマのヤゴとヤマトンボの仲間のヤゴを隊員が網で捕まえました。ここで捕まえた主なものは、カワムツ、ドンコ、ヤゴ（コオニヤンマ、ヤマトンボの仲間、ギンヤンマなど）、メダカ、タイコウチ、ガムシ、スジエビ、ヌマエビ、カワニナなど

#### 5. 会員の声 「スズメバチ」 （ 関根 雅彦 記 ）

最近活動に参加できず申し訳なく思い、7月18日に、ずっと気になっていた川のヨシ刈りぐらい仕事前にやっておこうと思い、6時から刈り始めたのですが、1mも刈らないうちにスズメバチに右手親指を刺されてしまい、すごすごと退散しました。その際の教訓をいくつか。

- ① 勝手知ったる場所と思っても、一人で行動しない。
- ② もしもの時の行動は常に頭に入れておく。
- ③ 事故を報告するときは正確に

- ① 今回、気づかずに巣のすぐ手前まで刈りはらっていました。もし巣を傷つけていたら、ハチに囲まれてしまっていた恐れもあります。そんなとき1人ではどうしようもない。たくさんさされてショック状態に陥ったりしたら、それこそアウトでした。
- ② ハチに刺されたときどうすべきか、いいかげんな知識しか頭にありませんでした。小便をかけてもムダだったのでは、とか、スズメバチに刺されたらショック症状になるのではなかったっけ、とか、最寄りの病院ってどこだっただろう、とか、なまかじりの知識では役に立たないことばかりでした。結局携帯で家に電話してインターネットで応急処置や病院の所在を調べてもらった次第です。総会のときにでも、全員にへび、ハチ、毛虫、その他の応急処置法と最寄りの病院の資料を配布しておくとか、ホームページに常時掲示しておくとか、もしもの時の行動の記憶を新たにしておくことが必要と感じました。
- ③ スズメバチの巣に所在について8時ごろには原田事務局長に電話連絡しましたが、場所についての伝え方が不十分で、結果として吉富さんが再び刺されてしまったそうですね。報告は極力正確にしなければならなかったと反省しています。

#### 6. 会よりの連絡事項 （ 事務局より ）

##### 「100号の記事」

今年の11月には会報もいよいよ100号となります。皆様の記事（会員の声、情報提供、ビオトープ関連事項など）提供をお願いします。11月にもらったのでは、会報の編集に時間が掛かりますので、早めをお願いします。文章を書かれた方は、原田事務局長へ、メールの方は、原田事務局長または西原編集責任者へ提出して下さい。

会報100号は、特別に印刷などはしませんが、写真などが多い場合には良質の紙に印刷します。また、100号についての提案などがあれば連絡をお願いします。

## 「お知らせ」

### ・新入会員の紹介

綿部謙造さん 車地 連絡先 電話 62-1358 他 E メール有

### ・退会会員のお知らせ

長尾 聡さん 宇部市文京町 会社退職時入会したが再就職で全く参加できず退会要請

## 7. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) ( 管 哲郎 記)

### (15) オニヤンマ (オニヤンマ科) *Anotogaster sieboldii* (Selys)

日本産トンボ類のなかでも最も大型のトンボで良く知られ、黒地に黄色の条が入り大型なので誰にも良く分かります。6月中旬から出現して10月末まで見られ日本全土に生息しており、平地や丘陵地、山地の小川や湿地、池や溝など幅広く生息しています。

羽化は真夜中から未明にかけて行われ一晩の羽化数も少ないために羽化の様子を撮影するのに数年かかりました。若いトンボたちは山中の開けた場所や斜面などに集まり集団でゆっくりと旋回飛行をおこなったり、人や車のあまり通らない道路上で低空飛行します。

暑さ厳しい真夏などでは高い山の上に登り開けた空間や道の上をゆっくりと旋回飛行しています。脅さなければ人のすぐ近くを平気で通り過ぎてゆくので、採集するのをためらってしまいます。7月始めのトンボはまだ若いため体が柔らかく翅や体が痛みますので、採集は7月末から8月に入ってからが良いと思われます。

(下) 羽化終了間際のメス (♀)



(左)  
オス  
休止



(右) 休止中の♂



(上) 終齢のヤゴ



(右) ♂、♀ペアで休止

## 8. 編集後記

今、「身近な雑草のゆかいな生き方」(草思社)という本を読んでいます。カラスノエンドウ、タンポポやヨモギ、ヒシ、ススキなど、親しみやすい植物について、その生き抜く力や、子孫を残すための知恵などが書かれています。とても読み易いのですが、本を開くとすぐ眠くなったり、子どもが「本をさわらせて～」と寄ってきます。今年1月からの育休中にたくさん本を読むつもりが、まだ2冊目！ もう少し早く読みたいところです。

( 大野 靖子 記 )

今年もうすぐ夏が終わります。ただ、今年の夏は特に異常だったと思います。全国各地での集中豪雨(ゲリラ豪雨)、土石流、地震とたくさんの方が亡くられました。宇部市でも厚東川の氾濫で厚東駅前が浸かり、うちの娘は救命ボートに乗り怖い思いをしました。本当に自然の驚異を感じた夏でした。これから地球はどうなっていくのだろうか？

考えさせられる夏でもありました。

( 益田 真一 記 )